

学報



学報 Vol.48 2016年12月
 SEIREI CHRISTOPHER UNIVERSITY REPORT

発行者 聖隷クリストファー大学 <http://www.seirei.ac.jp>
 〒433-8558 静岡県浜松市北区三方原町3453 TEL.053-439-1400 FAX.053-439-1406

聖隷クリストファー大学

国際交流レポート

▶ 米国サムエルメリット大学より研修生を受入れました

6月6日～13日、カリフォルニア州にある本学交流協定締結校Samuel Merritt University (SMU) から看護学生10名および教員3名が研修のために本学を訪れました。

研修では本学を拠点に、学内見学・演習・講義・学生交流の他、聖隷三方原病院での防災対策に関する講義や高齢者施設の見学などを行いました。フットケア演習などの学内演習には本学看護学部の学生も参加し、日頃の本学での学びを共有することができました。

また、SMU教員による「シミュレーション教育の考え方と手法」に関する講義は、米国のシミュレーション教育の先進的な取り組みを学ぶ貴重な機会となりました。今後の両大学の交流がますます深まることを期待しています。



▶ シンガポール研修を実施しました



9月3日～11日、本学交流協定締結校であるナンヤン理工学院 (NYP) を拠点としたシンガポール研修に23名(看護学部生10名、社会福祉学部こども教育福祉学科生1名、リハビリテーション学部理学療法学科生6名、作業療法学科生6名)が参加しました。この研修は、シンガポールの保健医療福祉施設の訪問見学のほか、両校の学生の合同演習体験や授業見学、学生交流会など、同じ専門職を志す同世代の学生との交流プログラムが多く組まれていることが特徴です。

参加した学生は、シンガポールの保健医療福祉について学ぶと共に、言葉の壁を感じながらも英語で自己表現を試み、NYP学生宅でのホームステイや学生交流などを通して、国際交流の楽しさを大いに感じていました。

ボランティア通信

ボランティアサークル「いぶき」

元部長 伊熊 公一 さん
いくま こういち
 (社会福祉学部介護福祉学科4年次生)



「いぶき」のメンバーと住民、福祉の専門職などが集まって行われた円卓会議



「いぶき」の提案でスタートした高齢者の買い物支援

私たちは、災害時の募金活動のほか湖西市や磐田市の社会福祉協議会と協力した「まちづくり」の活動に関わってきました。特に昨年は磐田市における円卓会議(ラウンド・テーブル)の活動に力を入れました。内閣府の取り組むユース・ラウンド・テーブルを参考に企画を作成しました。見付地区社会福祉協議会と連携し、多様な専門機関や人が集い、対話を行い、地域課題の解決を図る円卓会議を年7回実施してきました。現在は小中学生も関わり、月1回の継続的な高齢者買い物支援の活動に結びついています。

活動の活性化を図るため、内閣府の推薦をいただき、今年「青年リーダー研修会」に参加しました。現在は活動を本学の

ボランティアセンターに移行しています。誰もが地域に関われる環境を学内に整え、また見付地区の住民の方が主体となった活動となるよう地域に寄り添った活動を継続しています。さらに、活動の周知を図るため学外での事例発表や紹介なども関連機関と協力しながら行っています。



2016年3月、「いぶき」の活動が評価され、磐田市見付地区社会福祉協議会より感謝状が授与されました(写真左が伊熊さん)

学報へのご意見・ご感想をお寄せください

読者の皆様のご意見を参考に、より充実した内容をお届けできればと考えております。ご協力お願い申し上げます。

学報アンケート

→ <http://blg.seirei.ac.jp/d/>

携帯電話からもアクセスできます



CONTENTS

- 1 聖書のことば
- 2 実習奮闘記
- 3 特集

聖灯祭& ホームカミングデー

- 5 就職支援
- 7 クリストファーニュース
- 9 聖隷学園だより
- 11 私の教育・研究
- 12 2016年度研究助成
- 13 新任教員の紹介／著書紹介
- 14 後援会から

裏表紙 国際交流レポート／ボランティア通信

聖書のことば



ひとりのみどりごがわれわれのために生れた、
 ひとりの男の子がわれわれに与えられた。
 まつりごはその肩にあり、その名は、
 「靈妙なる議士、大能の神、とこしえの父、平和の君」
 ととなえられる。
 そのまつりごとと平和とは、増し加わって限りなく、
 ダビデの位に座して、その国を治め、
 今より後、とこしえに公平と正義とをもって
 これを立て、これを保たれる。
 万軍の主の熱心がこれをなされるのである。

口語訳聖書 イザヤ書 9章6-7節

年の瀬の慌しさの中、アドベント(待降節:イエスの誕生前四週間を表わす)を迎えました。

旧約聖書の預言者イザヤは「驚くべき指導者、力ある神、永遠の父、平和の君」である救い主の誕生を預言し、新約聖書の福音書記者ルカは、その預言の成就を記しています。御子イエスはベツレヘムとある家でおとめマリアから生れ、「飼い葉桶」に寝かされた、と三度記されています。嬰兒イエスを拝跪したのは天使と羊飼、東方から旅をしてきた占星術の学者たちだけです。当時の王ヘロデに至っては自己の権力保持のために、イエスを含む二歳以下の男児虐殺を命令した、とまで記録されています。

聖書は「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである(ヨハネによる福音書 3章16節)」と宣言しています。イエスのご降誕は人間の罪の贖いのためであることに気付かされます。

知ってか知らずか巷には「クリスマス」が溢れています。この言葉の意味は「キリストを礼拝する」です。「神の愛の事実」として「飼い葉桶」に眠る嬰兒イエスを心に迎え入れる時、真のクリスマスを喜ぶことができるのです。

聖隷学園宗教主任 永井 英司

保健・医療・福祉系専門職の国家資格取得を目指す本学の学生は必ず「実習」を経験します。実習には、「臨床実習」や「見学実習」など様々な種類があり、また学科・学年によって内容や期間が異なります。

今回は、看護学部看護学科、社会福祉学部介護福祉学科、そしてリハビリテーション学部理学療法学科の学生が行った実習の様子をご紹介します。

公衆衛生看護学実習

時期: 4年次5~6月(4週間)



看護学部 看護学科 4年次生
 よしむら まい
 吉村 磨依 さん

公衆衛生看護学実習では、公衆衛生看護活動の実際を知り、地域診断や健康教育などを通して、地域におけるニーズや健康課題について学びを深めました。中でも今回は、地域全体を見通した関わりが必要であるということを知りました。実際に地域住民の方にお話を伺うことで、今必要な支援だけではなく、その地域全体のニーズを考える必要があることを実感しました。その地域ならではの将来予想される課題や、その課題に対しどうすべきであるかを考えるための良いきっかけにもなったと思います。これからはこの学びを活かし、地域住民の方との関わりを大切に、将来を見据えた支援をすることのできる保健師になりたいと思っています。



介護実習Ⅲ

時期: 2年次2~3月(5週間)



社会福祉学部 介護福祉学科
 4年次生
 いくた しおり
 生田 しおり さん

介護福祉士資格取得のためには450時間の実習が必要となり、最後の実習となる介護実習Ⅲでは、「介護過程の展開」を実施しました。大学での講義・演習とは違い、実際のご利用者を対象とするため、適切な支援に必要な情報収集に苦慮しました。特に「相手の立場になる」ということの難しさを体験し、【共感とは何か】、【価値観を理解するとはどういうことか】など介護福祉士の専門性につながる思考過程を繰り返しました。大きな学びは「想像力を鍛えることで相手の立場により近づいて考えることが可能」という基本的な姿勢に気づいたことです。今後はこの貴重な経験を基に「相手に寄り添う支援」について追及したいと考えています。



臨床理学療法実習Ⅳ

時期: 3年次10月(4週間)



リハビリテーション学部
 理学療法学科 3年次生
 なかむら みき
 中村 美貴 さん

臨床理学療法実習Ⅳでは、リハビリ病院にて4週間の実習をさせていただきました。理学療法や作業療法などのリハビリ場面や患者さんの日常生活を見学させていただき、実際に様々な評価をさせていただきました。今回の実習では、患者さんの姿勢や動作から起きている現象を捉え、原因が何であるか仮説を立てて評価し、統合と解釈することの難しさを学びました。また、大学で学んだ評価項目だけでなく、実際に患者さんの身体を動かした時の動き方や重さなど自分が感じたことも評価の一つになると改めて学びました。患者さんによって症状は異なりますが、今回の実習で学んだことを活かし、患者さんをよく見て必要な評価を行い一人ひとりに合った最適な治療法を判断できるようにしていきたいです。



聖灯祭



11月5日、聖灯祭を開催しました。在学生、卒業生・修了生、教職員から近隣の福祉施設の方、周辺にお住まいのお子様からご高齢の方まで、大勢の方にご来場いただき交流することができました。今年は気持ちの良い秋晴れに恵まれ、キャンパスのいたるところで参加された皆様の笑顔や笑い声があふれ、大変にぎわいをみせた一日となりました。



健康祭

看護学部・社会福祉学部・リハビリテーション学部各学科の学びの特色が活かされた健康や福祉に関するブースが設けられました。



看護学科/血圧測定



理学療法学科/体力測定ブース



作業療法学科/革細工体験



言語聴覚学科/音声ブース

聖灯祭
実行委員長
より

聖灯祭をふりかえって



リハビリテーション学部
理学療法学科
2年次生
さかした しゅんや
坂下 峻哉さん

看護学部
看護学科
2年次生
たなか しおり
田中 詩織さん

リハビリテーション学部
理学療法学科
2年次生
しらき はやと
白木 捷斗さん

今年の聖灯祭のテーマ「創～Sky is the limit～」は、学生一人ひとりが持つ無限の可能性を存分に発揮し、たった一つの聖灯祭を創りあげていこう、という思いから決定しました。当日は天候に恵まれ、幅広い年代の多くの方に足を運んでいただきました。今年は専門学校の開校や、野外ステージの有志など新しいもの尽くで、準備の段階から当日までバタバタして大変でしたが、実行委員をはじめ多くの学生、教職員、卒業生の方々のご協力のおかげで無事、聖灯祭を成功させることができました。

最後になりますが、聖灯祭にご来場くださいました皆様、そしてご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

模擬店・サークル発表など

各サークルや近隣の福祉施設の方々による趣向を凝らした模擬店が開かれました。野外ステージではダンスや演奏の発表、各教室では茶道サークルや演劇サークルの発表のほか、高齢者や障がいがある方達が製作した絵画や手工芸品の展示(※)などがありました。



野外ステージ



演劇サークル



宝石箱展(絵画展※)



茶道サークル



宝石箱展(絵画展※)



子育てひろばたっくん

社会福祉学部子ども教育福祉学科が主催した「子育てひろばたっくん」では、地域のお子様と保護者の方を対象としたイベントを開催しました。



模擬店



ホームカミングデー

ウェルカムセレモニー



第10回目となるホームカミングデーを聖灯祭と同日で開催しました。ホームカミングデーは、短期大学、ヘルパー学園、専門学校、大学学部・大学院すべての卒業生・修了生の皆様に母校に戻り、本学の現在の様子を知っていただき、実践や研究・研修の拠り所として、また保健医療福祉の最新情報や人材情報の交換拠点として母校を活用していただきたい、そして同窓生と旧交を温め、教職員と交流していただきたいと考へ開催しています。大学にてウェルカムセレモニーや勉強会・交流会などを行ったのち、会場をオークラアクティホテル浜松に移しパーティを行いました。今年は285名の卒業生・修了生がお越しくださいました。



オークラアクティホテル浜松
で開催したパーティ

領域ごとの勉強会・交流会

看護系、社会福祉系、リハビリテーション系の領域ごとに分かれて開催した勉強会・交流会では、それぞれにテーマを設け、学年・世代を超えた様々な意見交換をしました。



看護系

『地域に広げる発達障がい支援の輪』



社会福祉系

『ミニレクチャー ああ授業をもう一度』



リハビリテーション系

『今聞きたい私の悩み』

ホームカミングデーを終えて

秋晴れの下、県内外から大勢の皆様のご出席を得て、つつがなくホームカミングデーを進めることができました。

領域ごとの勉強会・交流会では、それぞれのテーマで懐かしい授業を満喫できました。悩みを共有したり、新しい知識を得ることができ、有意義な時間を過ごせたと思います。

パーティでは久しぶりの旧友や恩師との再会で、あちらこちらから歓喜の声が聞かれ楽しいひとときでした。

このような機会を設けてくださっている大学にご出席いただいた皆様のおかげで無事に終える事ができましたことに感謝しています。ありがとうございました。



ホームカミングデー2016
実行委員長
まつい さちこ
松井 祥子さん
聖隷学園浜松衛生短期大学
第二衛生看護学科
1976年度卒業



2016年度卒業・修了予定者の内定状況 速報

2016年度に卒業・修了する学生の就職進学希望者は11月28日時点で348名で、就職内定と大学院・助産学専攻科などへ進学が決まった学生の人数は293名、内定率は84.2%になります。社会福祉学部、リハビリテーション学部の未内定の学生は、採用選考の途中であり、結果を待っているところです。また、求人時期が遅い社会福祉学部の児童福祉関係、リハビリテーション学部の小児・発達領域を希望している学生は、希望領域の求人が出るのを待ち、就職活動をしていきます。

	卒業予定者数(名)	就職進学希望者数(名)	就職内定者数(名)	大学院・助産学専攻科等進学者数(名)	内定率(%)	
看護学部	148	147	134	7	95.9	
助産学専攻科	17	17	17	0	100.0	
社会福祉学部	社会福祉学科	37	37	32	0	86.5
	介護福祉学科	14	14	12	0	85.7
	こども教育福祉学科	46	46	36	0	78.3
リハビリテーション学部	理学療法学科	32	32	24	0	75.0
	作業療法学科	32	32	19	0	59.4
	言語聴覚学科	23	23	12	0	52.2
大学計	349	348	286	7	84.2	

(11/28現在)

求人情報について

本学に届いた求人票の求人数です。大学に届いた求人情報は、就職センターホームページや求人情報配信システムにより学生にお知らせしています。

求人情報配信システム
本学に届いた求人情報をメールにて配信しています。保護者の皆様もご登録いただくことができます。情報提供をご希望の方は、就職センターホームページよりご登録ください。

職種/求人数(名)	全国	静岡県 愛知県東三河
看護職	17,408	1,813
福祉職	4,017	1,054
保育教諭・幼稚園教諭・保育士	4,030	609
理学療法士	2,706	236
作業療法士	2,596	238
言語聴覚士	1,300	105

(11/28現在)

求人票・就職進学試験報告書の閲覧について
採用・入学試験を終えた学生が記入した採用・入学試験についての報告書を就職センターのホームページで自由に閲覧できます。保護者の皆様もご覧いただくことができます。ログインにはIDとパスワードが必要となりますので、ご希望の方は就職センターまでメールにてご連絡ください。

聖隷クリストファー大学 就職センター
☎ 053-436-7233 FAX 053-437-6782
メール syuusyoku@seirei.ac.jp
ホームページ <http://blg.seirei.ac.jp/ssk/>

各学部の就職委員(教員)から保護者の方へのメッセージ

看護学部



就職委員
看護学科 准教授
のざき れいこ
野崎 玲子

就職・進学活動においては、講義や実習での学びや経験を通して成長していくこと、そして自己分析を行い、自分自身で積極的に情報収集を行うことが大切です。看護学部では学生一人ひとりが個性や適性に応じて自ら選択でき、納得のできる進路に進むために、就職担当の教員やアドバイザー教員、就職センターの職員、保健師に関しては公衆衛生看護学担当の教員、養護教諭に関しては養護教諭課程の教員と連携をとり多面的なバックアップ体制を

とっています。具体的な就職支援としては、3年次に「4年次生による就職活動報告会」や「卒業生と在学生との懇談会」を開催しています。インターンシップに参加して実際に自分で確認することも勧められています。また、複数の病院(静岡県・愛知県東三河地区と聖隷福祉事業団の病院)が参加する「病院説明会」を実施しています。説明会では、病院の概要や現状のほか、勉強会・研修会や研究活動を活発に行いスキルアップ・キャリアアップに力を入れているか、またプリセプター制度により丁寧な指導が受けられ相談しやすいシステムになっているか、さらにはワークライフバランスの視点から働きやすい環境であるかなどの情報を得ることができます。また、それ以外の項目について個別相談ができるプログラムを設けています。なお、病院説明会は、例年4年次の4月に実施していましたが、今年度からは、採用試験時期の早期化などに伴い、3年次の3月に実施することになりました。

社会福祉学部



就職委員
介護福祉学科 助教
あきやま えみこ
秋山 恵美子

社会福祉学部の卒業生は、その領域の幅広さから、児童、高齢者、障がい者福祉、地域福祉、行政、相談援助、更生保護などさまざまな分野で活躍しています。昨年度、介護福祉学科でも、社会福祉施設や官公庁などに就職し、就職率は100%となっています。社会福祉学部では、新学期早々より学年別の進路ガイダンスが開催され、各学年の立ち位置に応じた進路への説明がされます。4月下旬の福祉施設説明会では、4年次生全員、

3年次生希望者を対象に、法人の採用担当者による説明会と、個別相談が開催され、早期より就職活動が計画的に準備できるような支援を行っています。求人情報は、希望する在学生、保護者の方に就職センターの求人情報配信システムから情報提供がされ、幅広い就職先の紹介を行っています。3年次生は、10月より具体的な就職活動に向けて準備がスタートしますが、11月に「卒業生による仕事報告会」、「4年次生による就職活動報告会」が開催され、就職活動がより身近なものになるような取り組みが行われています。さらに、就職対策委員の教員や就職センター職員による細やかなサポートと個別相談により、個々の学生の希望に応じたオーダーメイドの就職対策が行われています。就職することだけが、大学の目指すものではありませんが、在学中はボランティア、サークル活動に参加し、豊かな感性と知性を磨き、社会貢献できる目指す職業に向かって、充実した学生生活を送ってほしいと思います。

リハビリテーション学部



就職委員
言語聴覚学科 准教授
たに てつお
谷 哲夫

就職活動は4年次の8月頃から活発になります。10月頃までに病院などから内定をいただく学生がいる一方で、翌年の国家試験後に就職活動を始める学生もいます。4年次生にとって8月以降の時期は心理的、肉体的に相当な負担となります。この厳しい時期を乗り越えるには、「明確な目的意識」と「強い信念」が必要です。「明確な目的意識」とは、「必ずリハビリの専門職になるのだ」という自己認識です。本学のカリキュラムでは3年次に

「キャリアデザイン」という授業を設定しています。専門職として活躍する本学出身の先輩方から職業選択の動機やキャリア形成過程を直接聞くことで、医療人としての将来像を描く手助けになります。「強い信念」とは、リハビリ専門職を選んだ自分の選択は正しいのだ、という確信です。4年次の「リハビリテーション専門職種間連携の基礎」では多くの職種同士の検討を経て患者の治療方針を決定する過程を、実際に専門職を演じることで疑似体験し、専門職の仕事の意義を実感できます。理学療法、作業療法、言語療法などのリハビリ専門職は、障がいを持った方々の回復を助ける高度な技術と共感性が求められます。今後も決してロボットに取って代わられる職業ではないことは社会に広く認識されています。私たち教職員は、学生たちが選んだリハビリ専門職のすばらしさ、社会的貢献の大きさ、高い将来性を伝え、自信を持って就職活動に臨めるよう支援していきます。

大学院への進学について

先端科学技術の発展による医療の高度化、少子高齢社会の到来に伴い、日々変容する状況に十分対応できる高度専門職業人の養成が重要課題になっています。聖隷クリストファー大学大学院には、看護学、リハビリテーション科学、社会福祉学の3つの研究科(博士前期課程・後期課程)があります。本学を卒業した方、既に医療機関や福祉施設などに専門職として勤務経験をもつ方が入学し、それぞれの分野をより深く探求し、より質の高い援助ができる優れた専門職を目指すための教育を行っています。授業は、保健医療福祉施設などで勤務する専門職者が休職あるいは一時退職することなく、在職したまま大学院教育を受けることができるよう、夜間および土曜日や長期休業期間中に行っています。

CHRISTOPHER NEWS

クリストファーニュース

韓国のカトリックサンジ大学と交流協定を締結しました

9月6日、本学は韓国安東市にあるカトリックサンジ大学と交流協定を締結しました。カトリックサンジ大学にて開かれた調印式では、本学の小島操子学長が同大学の鄭一(チャンイル)総長と共に協定書にサインを交わしました。

カトリックサンジ大学は、本学と同様にキリスト教精神に基づく建学の理念を掲げ、多くの共通する学科(看護学科、社会福祉学科、幼児教育学科、作業療法学科)をもつ学生数約3,000名の私立大学です。本学にとって4校目の交流協定締結校となる同大学とは、本学の社会福祉学部を中心とした交流を進めていく予定です。



調印式にて小島学長の挨拶(写真右は鄭一総長)

2016年度専門職連携教育を実施しました



4年次生:事例の検討

9月12日～15日の4日間、4年次生は「専門職連携演習」に取り組みました。看護学部、社会福祉学部、リハビリテーション学部の3学部7学科の学生が対人援助における専門職者同士の連携と協働に関して、その意義と実践方法について理解を深めるために実施しています。これまでの講義や演習・実習などから学んだ経験を再確認し、さまざまな事例に対して他学部学生とともに連携を図ります。

学生は3学部混合のグループに分かれ、対象者の疾患・障がい、年齢、家族構成などの事例を作成し、その事例に対する各専門職の介入・連携の仕方やケアプランなどについてロールプレイングを交えながら発表しました。教員や他グループから質問、意見をを受けたり、他グループの発表を聞くことで、より気づきや学びを深めていきました。

また、1年次生は9月15・16日の2日間、「専門職連携の基礎」に取り組みました。教員・4年次生によるプレゼンテーションやビデオ学習などを通して「専門職連携」について感じたことや考えたことをグループに分かれてまとめ、発表会を行いました。



4年次生:グループ発表



1年次生:グループワーク

学生用の駐車場を増設しました

11月、聖隷厚生園讃栄寮東側に「第4駐車場」を新設しました。本学の大学・専門学校の学生が利用できる駐車場は、これまでの第1・第2・第3駐車場の393台から481台に拡張しました。今回の整備に伴い、これまで収容台数の制限により駐車場を利用できなかった通学距離5km未満の方でも、駐車場の利用を許可できる見込みとなりました。



新設の第4駐車場



問い合わせ窓口

駐車場・スクールバスの利用に関するお申し込みやご質問は学生サービスセンターへご連絡ください。
場所 大学1号館1階スチューデントプラザ内
電話 053-436-1125 メール service@seirei.ac.jp

スクールバスの利用について

満足度調査などで多くの要望が寄せられていた、本学の大学・専門学校の学生専用スクールバス(浜松駅～キャンパス間)を4月より運行しています。11月25日現在、65名の学生が利用しています。スクールバスについてのお問い合わせは、右記窓口までご連絡ください。

保健福祉実践開発研究センターより

2016年度公開セミナー・公開講座・地域貢献事業研究報告会 [実施報告]

専門職対象 公開セミナー①

[6月25日実施]

働くモチベーションを生み出すチームづくり ～仕事上手は「ほめニュケーション上手」～



前半の講演は、本学看護学部の高橋佐和子助教がケアマネージャーに扮してチームづくりの疑問や苦勞について語り、同 伊藤純子助教がそれに答える形で、承認欲求とモチベーションに関する理論を織り交ぜながら解決策などをアドバイスする会話形式で進みました。後半は、参加者6～7名のグループで意見を出し合い、カードを使用したり図を描いたりしながら取り組むワークショップを行いました。グループワークでは、あちらこちらで歓声があがり和やかな雰囲気の中でチームビルディングについて体験する機会となりました。参加者からは「とても楽しく参加できた」という声が多く寄せられました。

専門職対象 公開セミナー②

[10月29日実施]

《シンポジウム》障がい者の就労継続支援



前半は、オールしずおかベストコミュニティ障害者雇用推進コーディネーターの小倉将数氏、ヤマハ(株)特例子会社 株式会社ヤマハアイワークス代表取締役社長の竹ノ内時彦氏、特定非営利活動法人 浜松NPOネットワークセンターの山野由香氏、障害者就業・生活支援センターだんだん センター長の加藤陽一氏の4名のシンポジストから障がい者の就労継続支援について活動紹介をしていただきました。後半は、本学リハビリテーション学部の建木健助教がコーディネーターとなり、参加者とのディスカッションを行いました。ディスカッションでは、インターネットの質問受付サイトにスマートフォンなどから質問をいただき、参加者とその場で活発な意見交換を行うことができました。

一般の方対象 公開講座

[7月23日実施]

超高齢社会を乗りきるためのケアのあり方 ～より豊かな生活を支えるために～



第1部は、『高齢社会で求められる介護福祉実践 世界が注目する最新の自立支援介護』と題して本学社会福祉学部介護福祉学科長の古川和稔教授が科学的根拠と分かりやすい解説を基に、実践的な自立支援介護について講演を行いました。第2部は、50分の自主制作ドキュメンタリー『毎日がアルツハイマー2』の上映後、製作者(映画監督)の関口祐加氏が、『認知症とともに生きる 認知症ケアを通して学ぶ人生哲学』と題した講演を行いました。

第1部、第2部ともユーモアに富んだ分かりやすいお話で、参加者からは「介護初心者にも分かりやすかった」、「3時間があっという間だった」などの声が多く寄せられました。

研究報告会

[11月5日実施]

地域貢献事業研究報告会



本学教員が2015年度に実施した地域貢献事業研究(地域の保健医療福祉の実践現場と共同で行う研究や地域との基盤作りとしての事業に関する共同研究)の報告会を聖灯祭・ホームカミングデーと同日で開催しました。報告会は6名の教員によるポスター発表形式で行い、卒業生、本学教員のほか多くの一般の方にお越しいただき、活発な意見交換が行われました。またポスター発表の合間には、元本学社会福祉学部准教授の店村真知子氏によるミニコンサートも開催し、会場はリラックスした雰囲気に包まれました。100名を超えた来場者からは、「どの研究も気になるテーマで興味深かった」、「大変勉強になった」などの声が多く寄せられました。

聖隷クリスチャー中・高等学校

野球部が県大会で初優勝を飾りました

野球部監督 うえたけ かずと 植竹 和人

第69回秋季東海地区高等学校野球静岡県大会において、創部以来初の優勝をすることができました。1回戦は清水桜ヶ丘(中部3位)、2回戦は夏の選手権大会覇者の常葉菊川、準々決勝は日大三島(東部1位)を破った駿河総合、準決勝は優勝候補の静岡(中部1位)を破り、初の東海大会出場・決勝進出を決めました。そして決勝で藤枝明誠(中

部2位)に競り勝つことができました。夏の選手権大会では開幕の初戦で敗退し、県内で一番早い新チームのスタートとなりました。まず、県内で一番弱いチームであることを認識し、学校生活、練習内容など、考えることのできる、ありとあらゆることを改善してきました。静岡県大会では西部5位からスタートしたチームですが、トップまで上り詰めることができました。こ

れも選手の頑張りはもちろんのこと、引退した3年生の献身的な支えを初め、多くの方々に支えられたおかげだと思っています。ご声援ありがとうございました。これから甲子園出場を目指し毎日努力します。



セミナーハウスが完成しました

英数科科长 のまけんじ 野間 賢二

本校校舎東側にセミナーハウスが完成し、8月30日より利用できるようになりました。1階・2階合わせて56席のデスク(隣席との仕切りがある個人ブース)があり、毎日、放課後の自習室として平均40人以上の生徒が利用しています。高校3年生の利用が多いですが、中学1年生から高校3年生まで幅広い学年で利用しています。セミナールーム(高校3年生が受験対策講座を行う教室で、講座が行われていない時には自習室として利用可)にも42席あり、定期テスト前になるとセミナールームにも生徒が押

し寄せ、席取りが行われるほどの盛況ぶりです。また、10月には初めて高校3年生34人と教員による勉強合宿(44人宿泊可)が行われました。今回は多様化する入試に対応するため、6つのテーマ(講座)を設け、生徒たちはそれぞれ自分に合ったものを選択し、2日間そのテーマを中心に組みました。中間テスト最終日の午後から講座を開始し、夕食・シャワーの後も22時30分まで、翌日も8時30分から始めるという内容の濃いものでした。生徒たちの感想には、「施設は快適。プログラムは大変だっ



勉強合宿の様子

たけれど、友達や先生たちがいてくれたので、いつも以上に頑張ることができた。機会があれば、また参加したい」などと書かれていました。



学習に集中できる個人ブース



聖隷クリスチャー大学附属 クリスチャーこども園

いのちのつながりの体験

保育教諭 つちや たくと 土屋 拓斗

こども園では、日々の保育の中で、多様で豊富な自然とのふれあいを持ち、また食に関するさまざまな体験ができる機会を設けています。

10月25日には「竹巻きパン」作りをらいおん組(5歳児クラス)が行いました。自分たちでパン生地をこね、生地を竹の棒に巻きつけ、炭火で焼きました。右手で竹を回してパン生地を巻くのは、なかなか難しく、どの子も真剣そのものでした。パンが焼けるまで、「あっ、あれ私のだ」、「美味しそうな匂いがしてきたよ」などと会話をしながらパンが焼きあがるのを今か今かと待ちわびていました。焼



きあがると早々にパンを食しました。「熱いけれど、美味しい」、「焦げているところも美味しい」と満足げに頬張っていました。生地の粘りや柔らかさ、燃える炭からの熱気、パンの温かさや香ばしい香りなどを五感で味わいながら、子どもたちは喜んで活動に参加していました。



きりん組(4歳児クラス)は、園庭にあるビオトープの周囲にクスギとコナラの実(どんぐり)を植えました。どんぐりは冬に根を伸ばし、春に芽が出てくるというお話を外部講師のゲーテ先生(高橋正彦氏)から伺いました。来年の春を楽しみに待ちながら、それぞれが一粒ずつを植えていました。

ひつじ組(3歳児クラス)は、クスギ3本とコナラ7本の植樹を見学しました。「どんぐりさんが守られて大きくなりますように」と皆で心を合わせてお祈りをしていました。

法人事務局より

災害対応力の強化をすすめています ～熊本3大学への訪問を通して～

本学園における「学園の災害対応力強化」の一環として、熊本地震で被害を受けた3大学(熊本保健科学大学、熊本学園大学、九州看護福祉大学)を6月に訪問し、建物被害、トイレなどライフラインの被災と復旧対応の状況、自主避難地としての活動、学事(学生ボランティア)の対応などについて伺うことができました。3大学とも、キャンパスや駐車場に避難してきた近隣住民や学生へ必死に対応されたこと、断水の影響でプールなどから水を運搬してトイレを使用可能としたことなど、発災後の①断水、②トイレの不足、③衛生などの状況が分かりました。

今回の訪問を通して、『災害時の水洗ト

イレの確保』を本学園の災害対応力強化の最優先課題として取り組んでいます。本学園の強みである井戸水を活かし、断水・停電時でも、外部業者さんの手を借りず、学園職員だけで校舎内の水洗トイレが稼働できるよう、非常用発電機の実験訓練、給排水復旧対応(市水の給水から井水に切替、ホース連結等)訓練を行っています。災害時はこれらの操作により1号館、3号館1階、5号館、体育館などで水洗トイレの使用が可能となり、学生の皆さんは安心して校舎内に留まることが出来ます。今後、これらの訓練を定着させ、操作できる職員を増やしていきます。



給排水復旧対応訓練の様子。井戸水を汲み上げ、ホースを連結して1号館へ給水します。



災害時に大型発電機をトイレ給排水用として操作します。

臨床に生きるエビデンスを!

リハビリテーション学部理学療法学科 教授 **有菌 信一** ありその しんいち

- 学歴: 長崎大学医療技術短期大学
群馬大学大学院医学系研究科修士課程
畿央大学大学院健康科学研究科博士課程
- 主な所属学会: 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会
日本呼吸療法医学会
日本心臓リハビリテーション学会 他



Q1 先生の学びのきっかけと専門分野について教えてください。

私の研究テーマは、集中治療の理学療法、呼吸リハビリテーション、心臓リハビリテーションです。これらを学ぶきっかけは、卒業ゼミで恩師である千住秀明先生(当時長崎大学助教授)の研究室に所属したのが始まりです。長崎大学を卒業後も研究室に所属して、病院に勤務しながら臨床と研究を行ってきました。これらの領域は、今では一般的になってきていますが、私が理学療法士になった頃は、リハビリテーションや理学療法の中でも、非常にマニアックな領域でした。病院では呼吸器疾患や循環器疾患にリハビリテーションすることや、集中治療室に理学療法士がいることを医師や看護師に全く認識されていませんでした。そのため、医師や看護師に呼吸リハビリテーションと心臓リハビリテーションの必要性や効果を示すための研究が必要でした。

Q2 大学院ではどのような学びができますか?

本学大学院リハビリテーション科学研究科における、私が主宰する研究室では、呼吸系・循環器系に障がいを持つ人を対象としたリハビリテーションを探求する研究マインドと患者さんの視点に立った臨床マインドを兼ね備えたセラピストを育成しています。恩師からご教授いただいた「患者さんに還元できる研究で、臨床に生きるエビデンスを構築する」と「重箱の隅をつつくような研究は行わない」をモットーに大学院生指導をしています。また、臨床研究で得られた知見は、可能な限り国際学会で発表し、世界に向けて公表することも行っています。

Q3 現在取り組まれている研究や活動について教えてください。

現在取り組まれている研究は、「間質性肺炎患者と慢性閉塞性肺疾患患者における酸素療法と高強度運動療法の効果」や「集中治療領域の呼吸ケアと早期離床と嚥下機能」、「増悪を繰り返す心不全患者の包括的心臓リハビリテーション」などをテーマにしています。

2016年7月にCochrane Database of Systematic Reviewsで発表された“Ambulatory and short-burst oxygen for interstitial lung disease”のReviewにおいて、私たちが行ってきた研究が細かく分析され、エビデンスの蓄積に貢献しています。

9月、有菌先生(右)と博士後期課程の大学院生(右から2番目)はイギリスロンドンにて開催された欧州呼吸器学会に参加し、口頭発表を行いました。



■2016年度科学研究費助成事業 新規採択結果

科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金/科学研究費補助金)は、人文・社会科学から自然科学までのあらゆる分野にわたり、独創的・先駆的な研究を発展させることを目的とする公募型研究助成制度であり、「競争的研究資金」としては日本国内で最大規模の制度です。

本学でも科学研究費獲得に向けた様々な取り組みを実施し、2016年度は新規に16件の研究課題が採択され、継続課題37件と合わせ、大学として53件の採択件数となりました(研究代表者としての採択件数のみ、また延長課題を含む)。

2016年度の科学研究費助成事業配分額は、全国1300の研究機関の内、237番目となっており、医学部・薬学部を有しない医療・福祉系大学の中ではトップクラスの成績となっています。

過去5年の分野別新規採択累計件数において、「子ども学」は国立研究開発法人国立成育医療研究センターに次ぐ全国第4位、また、採択件数に占める女性比率が57.1%と全国第7位となっています*。

*文部科学省「平成28年度科学研究費助成事業の配分について」
http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/1377914.htm

学部など	学科・領域	職位	研究代表者	研究種目	研究課題
看護	成人看護学	教授	森 一恵	基盤(C)	高齢がん患者と家族の療養移行期に関する意思決定支援の評価
	小児看護学	教授	市江和子	基盤(C)	ターナー症候群の子どもと家族におけるライフサイクルを基盤とした支援モデルの構築
	公衆衛生看護学	教授	鈴木知代	基盤(C)	住民クレームを活用した公衆衛生看護管理能力向上のための教育プログラム開発
	養護	准教授	成松美枝	基盤(C)	アメリカにおける教員の養成・採用・研修の一体的改革の研究
	助産学専攻科	助教	三輪与志子	基盤(C)	20~30歳代の男女の「自分の身体と妊娠に対する認識」と「食事摂取」との関連
社会福祉	社会福祉学科	准教授	大場義貴	基盤(C)	疫学手法に基づくひきこもりの全容解明とRCTを用いた社会復帰支援プログラムの評価
	介護福祉学科	教授	古川和稔	基盤(C)	「ICTを活用した要介護高齢者の在宅生活支援モデル」の開発
	こども教育福祉学科	助教	細田直哉	萌芽	保育者の環境構成の支援ツールの開発——「保育環境のアフォーダンス事典」へ向けて
リハビリテーション	理学療法学科	教授	有菌信一	若手(B)	特発性間質性肺炎患者の身体活動を向上させる呼吸リハビリテーションプログラムの開発
		助教	坂本飛鳥	若手(B)	妊産婦の非対称性骨盤アライメントと骨盤帯痛の関連性
		助教	矢部広樹	スタート支援	高齢の腹膜透析患者の有害事象発生リスクに関する前向きコホート研究
	作業療法学科	准教授	田島明子	萌芽	介護予防を目的とした住民運営通いの場での地域作業療法実践モデル構築と評価法開発
		准教授	泉 良太	基盤(C)	医療経済評価に用いる効用値尺度におけるレスポンスシフトおよび最小重要差の解明
	言語聴覚学科	教授	佐藤順子	基盤(C)	精神症状を併発する認知症患者と介護者の社会的孤立への統合的介入方法の検討
	准教授	大原重洋	基盤(C)	軽中等度難聴乳児における補聴器装着支援モデルの開発	
聖隷三方原病院		臨床講師	森 雅紀	萌芽	臨死期の患者が「今日亡くなる」「今日は大丈夫である」ことを予測する指標の開発

科学研究費の研究種目

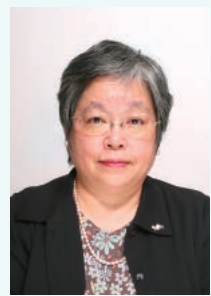
基盤研究	若手研究	挑戦的萌芽研究	研究活動スタート支援
1人又は複数の研究者が共同して行う 独創的・先駆的な研究(期間3~5年)	39歳以下の研究者が1人で行う研究 (期間2~4年)	独創的な発想に基づく、挑戦的 で高い目標設定を掲げた芽生え 期の研究 (期間1~3年)	研究機関に採用されたばかりの 研究者や育児休業等から復帰した 研究者等をサポートする研究 (期間2年以内)
応募額によりA・B・Cに区分 (A)2,000万円以上5,000万円以下 (B)500万円以上2,000万円以下 (C)500万円以下	応募額によりA・Bに区分 (A)500万円以上3,000万円以下 (B)500万円以下	1課題500万円以下	年間150万円以下

■2016年度学外助成金 新規採択結果(科学研究費を除く)

学部など	領域	職位	研究代表者	助成制度名称	研究課題
看護	精神看護学	教授	式守晴子	平成28年 聖隷浜松病院看護部研究助成金	院内の看護師に対するせん妄ケアの基礎知識を普及し、院内で統一した「せん妄ケアガイド」を活用した効果
	小児看護学	准教授	宮谷 恵	平成28年 聖隷浜松病院看護部研究助成金	NICUからGCUへの継続的発達支援による子どもへの成長・発達の効果
専門学校	介護福祉学	専任教員	植田裕太郎	老施協総研平成28年度調査研究助成	特別養護老人ホームに入居されている要介護高齢者の医学的数値からみる所見と各症状との関係

新任教員の紹介

①出身校 ②前任校 ③専門分野 ④メッセージ



看護学部看護学科(基礎看護学)

教授 鶴田 恵子

①聖路加看護大学大学院看護学研究科修士課程(現聖路加国際大学)②日本赤十字看護大学③看護管理学④「聖隷の原点」に導かれて、聖隷クリストファー大学に参りました。ワーク・ライフ・バランスが目標です。よろしくお願いいたします。



社会福祉学部こども教育福祉学科

准教授 二宮 貴之

①福岡教育大学教育学部、福岡教育大学大学院教育学研究科修士課程②西九州大学子ども学部子ども学科③音楽教育、演奏学④学生さんと共に、幼児から高齢者の方までが心豊かに毎日楽しく過ごせるような教育実践やコンサートを開催していきたいと思っています。よろしくお願いいたします。



Graduation Ceremony INFORMATION

今年度の卒業式・卒業パーティは3月8日(水)に行います

「2016年度卒業式・修了式」は、アクティビティ浜松中ホールにて、「卒業パーティ」は、グランドホテル浜松にて、2017年3月8日(水)に行います。

卒業年次生の保護者の皆様には、追ってご案内状をお送りします。多くの保護者の皆様のご出席をお待ちしています。

2016年度 国家試験日程

	試験日	合格発表日
看護師	2017年 2/19(日)	2017年 3/27(月)
保健師	2017年 2/17(金)	2017年 3/27(月)
助産師	2017年 2/16(木)	2017年 3/27(月)
社会福祉士	2017年 1/29(日)	2017年 3/15(水)
精神保健福祉士	2017年 1/28(土) 1/29(日)	2017年 3/15(水)
理学療法士	2017年 2/26(日)	2017年 3/29(水)
作業療法士	2017年 2/26(日)	2017年 3/29(水)
言語聴覚士	2017年 2/18(土)	2017年 3/28(火)

著書紹介

『介護職のための喀痰吸引・経管栄養ビジュアルガイド DVDつき』

メディカ出版 2016年4月

『介護職にできる「医行為でない行為」ビジュアルガイド』

メディカ出版 2016年6月



著者(共著)

社会福祉学部介護福祉学科 助教

あきやま えみ こ
秋山 恵美子



介護福祉士の基本研修「医療的ケア」の授業の中でも、喀痰吸引と経管栄養の演習は特にハードルが高く、学生さんにも教員にも大きな負担となっています。

そこで、「医療的ケア」演習の苦楽を共にしてきた教員仲間4名で制作したのが、『介護職のための喀痰吸引・経管栄養ビジュアルガイド DVDつき』です。「適切な吸引圧ってどれくらい?」、「どう声かけするの?」など、教科書には書かれていない疑問にしっかり答え、映像やイラストの細部までこだわって作りました。動画、テキスト、オリジナルの演習シナリオを活用すれば、学生さんも教員も演習がスムーズに迷いなく行えます。

『介護職にできる「医行為でない行為」ビジュアルガイド』は、爪切りや軽微な傷の手当て、服薬介助など、介護職が実施できる「医行為でない行為」の安全で正しい手順と注意点、観察のポイントをイラストでわかりやすく解説しています。介護職が行ってはいけない「医行為」との線引きも明確に示し、現場ですぐに役立つ1冊です。

後援会から 2016年度 保護者懇談会を開催しました

保護者懇談会は、保護者の方々と大学とのコミュニケーションの場として、日頃お子さんが学生生活を送っているキャンパスにお越しいただき、教育環境や教育の現状、目的、課題などについて大学側から説明をするとともに、学業、学生生活、就職、健康面など保護者の方々の質問などに直接教員や職員が答え、疑問・不安などを解消し、大学に対する信頼感を高めていただくことを目的として、後援会の協力を得て学部ごとに開催しています。今年度は下記の日程で開催し、大変多くの保護者の皆様にご参加いただきました。心より御礼申し上げます。

なお、次年度の保護者懇談会の日程は、決定次第ホームページにてお知らせします。今年度ご参加できなかった皆様も是非ご参加いただければ幸いです。

●今年度の開催状況

開催日	学部	参加者数	
7月 9日(土)	社会福祉学部	社会福祉学科	30組 32名
		介護福祉学科	14組 19名
		こども教育福祉学科	51組 63名
10月 8日(土)	リハビリテーション学部	理学療法学科	71組 95名
		作業療法学科	71組 85名
		言語聴覚学科	50組 65名
10月22日(土)	看護学部	看護学科	162組 199名

プログラム

学科・学年別による懇談会

昼食

個別相談・学内(実習室等)見学

※懇談会の形式や見学でご案内する実習室は学部ごとに異なります。



教職員との個別相談(社会福祉学部)



学科別説明会(リハビリテーション学部)



教員による実習室の紹介(看護学部)

在学生考案の学食新メニューを発売します!

毎年実施している在学生満足度調査および保護者満足度調査において、学食メニューの充実を求める声が多く寄せられていたことから、より満足度の高い学食メニューの提供を目的とし、後援会と学生食堂(株式会社日京クリエイト)の協力を得て、「在学生考案の学食新メニュー開発プロジェクト」を立ち上げました。プロジェクトに先駆け、2016年7~8月に全在大学生を対象に食堂満足度および新メニューの希望についてのアンケートを実施しました。プロジェクトでは、有志が集まった在学生の「学食特派員」が、寄せられた338件もの意見を参考に、これまでに無かった新しい学食メニューの検討・企画を進めています。新メニューは12月下旬より随時販売を開始する予定です。



試食会を実施しました

検討中の新メニュー(写真は一例です)

学食特派員より 新メニューに込めた想い

皆さんが「食べてみたい」と思えるよう、メニューの内容・見た目・味・値段すべて納得がいくまで話し合いました。一人暮らしでは摂りづらい野菜を沢山食べられるように栄養バランスも考慮しました。新メニューでランチタイムをさらに楽しんでもらえたらと思います! 普段食堂を利用しない方も、この機会に是非足を運んでみてください。

メニュー検討会には食堂の栄養士も同席し、様々な意見交換をしました

学食特派員

介護福祉学科3年/町田巖暉さん
看護学部2年/高橋菜摘さん、
寺尾適子さん、長坂実織さん
看護学部1年/今泉はる菜さん

保護者の皆様へお知らせ

保護者満足度調査アンケートのご協力をお願い

12月下旬、後援会より保護者様宅へ「保護者満足度調査アンケート用紙」をお送りします。大学の改善・改革につなげるため、是非回答にご協力くださいますようお願いいたします。なお、郵便による締切は1月13日(金)、インターネットによる回答の締切は1月15日(日)です。大学1号館1階総務部前にも回収BOXを設けています。本調査は無記名で実施いたします。率直なご意見をお寄せくださいますようお願い申し上げます。